

欧州における地下空間利用に関する一考察 ー地下空間への出入り口についてー

名古屋大学工学部 正会員 清木隆文
同上 フェロー 西 淳二
同上 正会員 市川康明

1. はじめに

近年、日本国内の都市部地下利用の目的およびその範囲は幅広くなっている。今まで地下空間と言えば暗いイメージを持つ傾向があったが、地下空間利用の先駆者である欧米を手本に改善してきた結果である。特に古くからの建物を大切にしているヨーロッパでは、地下への入り口が景観に与える影響を配慮する一方、サインで入り口をわかりやすくしている。本報告ではその実例を示しながら解説する。

2. ヨーロッパにおける地下空間への入り口

地下空間への入り口として、特に目につくものが地下鉄、地下駐車場のものである。以下に実例を示す。

2.1 ミュンヘンの地下鉄 カールス門から、新市庁舎のあるマリエン広場に至る道路は、周辺がモータリゼーション、歩行者で賑わうところである。特にミュンヘンの象徴ともなっている聖母教会は、周辺から一際目立つ存在である¹⁾。この歩行者道路の下には、地下鉄が通っていて、国鉄ミュンヘン駅から地下鉄で来ることでもできる。そこへは、市庁舎の前にあるエレベーターから降りられるようになっている(写真1)。また、エスカレーターを利用しても入れるようになっている。この場合一見それだけでは、地下鉄への入り口があるというのとはわかりにくい、「U」という大きなサインで、そこにあることを周囲に主張している(写真2)。

2.2 ウィーン国立オペラ座の地下駐車場 オーストリアのウィーンは音楽の都として世界中にその名が知れ渡り、その象徴的存在である世界三大オペラ劇場の一つ、国立オペラ座は19世紀中頃に作られたものである²⁾(写真3)。ここではほとんど毎日オペラ公演が行われるので、多くの人々が集まる。その人々の足となるのが、路面電車、地下鉄、乗用車である。特にオペラ座の公演が主に夜行われることを考えると、夜遅くまで安全に駐車できる地下駐車場は、旧市街の景観の保護に関しても有効である(写真4)。

2.3 シュテファン寺院前の地下鉄 ウィーンの魂と言われるシュテファン寺院はウィーンの象徴である。その周辺の旧市街は1930年代に建物の高さを26メートル以下にするように法律を制定し、観光客で賑わうこの周辺の景観を保存している²⁾。地下鉄はシュテファン寺院のすぐ傍を通っており、その出入り口は、外に出たときにまさにシュテファン寺院にやってきたということを体感させる場所に設置されている。特に、サインはないが、そこが地下鉄への入り口となっていることが見て取れる(写真5)。

2.4 シャンゼリゼ大通り地下駐車場 写真6は、フランス、パリのシャンゼリゼ大通りにある地下駐車場の入り口である。日本人にとってのあこがれの場所であるシャンゼリゼ大通りは、凱旋門から、コンコルド広場、チュイリー公園へとつづく世界に名だたる大通りである。車道とともに訪れた人々がゆったりと歩けるように歩道の幅が十分とってある。その周辺で買い物をする人々は地下鉄で乗り付ける場合がほとんどであるが、駐車スペースとして歩道に導入路のある地下駐車場も設置し、広々とした通りの景観を損なわないように違和感なく駐車場へと入れるようになっている。

3. まとめ

日本の地下空間開発の手本となるヨーロッパは、都市の再開発として地下鉄および主な駐車場を地下化した。その出入り口がそれまでであった古きよき時代の建物との調和を壊すことなくかつ、その存在を主張するようにうまく設置されている。

キーワード：地下空間, 欧州, 出入り口

〒464-01 名古屋市千種区不老町 名古屋大学工学部地圏環境工学専攻, Tel. 052-789-3830, Fax 052-789-3837.

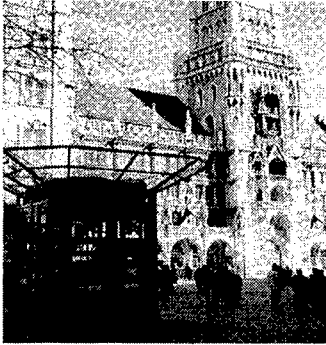


写真 1: ミュンヘン市庁舎前の地下鉄へのエレベーター



写真 2: ミュンヘンの地下鉄入り口

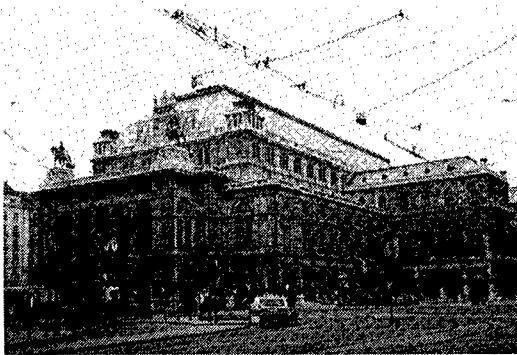


写真 3: ウィーン国立オペラ座

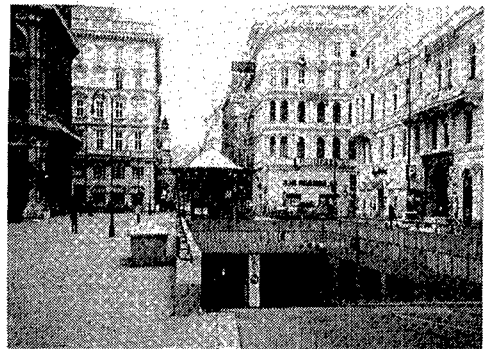


写真 4: 国立オペラ座隣の地下駐車場出入り口

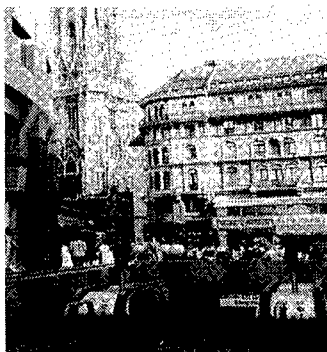


写真 5: シュテファン寺院隣の地下鉄入り口



写真 6: シャンゼリゼ大通りの地下駐車場入り口

参考文献

- 1) (財)関西情報センター編：世界都市再開発NOW, 学芸出版社, 1989. 2) 田中長徳：ウィーン古都物語, 凸版印刷, 1988.,